

奨励賞



設計者

伊藤昭博

群馬建築士会、(有)HIRO 建築工房

戸建住宅(専用)

群馬県高崎市

箕郷町の家

構造・階数
木造在来工法
地上2階

敷地面積
426.79㎡

建築面積
126.4㎡

延床面積
170.83㎡

竣工
平成26年9月12日



- A 南面外観
 - B 構造家の検討のもと、チューブの先端は最大3mのハネだしが可能となった
 - C 南にハネだした眺めるところ
 - D あつまるところを見る
 - E タイル張りの床は中庭と接続されている
 - F 周囲の緑と同化する
- 写真撮影...STUDIO-QUALIS
(スタジオクオリス)

選評

敷地は榛名山の麓の緩やかな南斜面に位置し、南北に細長く約2mの高低差を持っている。敷地の高低差を生かして、南端の玄関から幅の異なる空間を、中庭を囲みながら螺旋状に伸ばし、玄関ホールの上の2階居間に達する線形状の緩やかな一室空間住宅をつくり出している。

2階居間の南面はガラス張りで、南方の鳴沢湖と遙か関東平野を見渡すことができる。一見すると高低差のある複雑な平面計画に見えるが、螺旋平面は曲線ではなく直線によって構成され、曲がり角の節点は、敷地上に想定した尺貫法グリッドに載せられている。このため、平面スタディだけでなく、構造軸組の解析や仕口加工もパソコン上で簡単に行うことができたという。

徐々に床レベルが上がっていく線状の空間に、若い夫婦と子ども2人のための多様な機能空間が並べられている。住宅の中心は細長いカウンターを置いたダイニングキッチンで、その直上の2階に子ども室を置くことによって、リビングや屋上につながる二重螺旋的な空間をつくり出している。外壁断熱と屋上緑化によって、夏期冬期の環境制御は万全である。

さまざまな表情を備えたエキサイティングな住宅だが、細やかに修景した中庭が、室内から眺めるだけの日本庭園になっている点と、軸組に太い丸太を使った複雑な木造架構が、シナ合板と石膏ボード AEP の仕上げによって隠されている点が、やや心残りである。

(難波和彦)



D



E



F

